

度重なるリスクの確認に対して、医師は「想定しなくてよい」と言い切りました

ヨシノユギは、2003年初頭から大阪医科大学附属病院の「ジェンダークリニック」(GID 専門外来)に通い、GIDと診断されました。そして2006年5月20日、大阪医大で1例目となる乳房切除の手術を受けました。ヨシノは医師に対して、執刀経験や術式、時間や出血量などの詳細な説明を求めました。そして、起こりうるリスク(主に壊死)についても複数回質問しましたが、医師は「心配しなくてよい」「その可能性は想定しなくてよい」と述べました。しかし手術の結果は、左縫合部の全壊死・右縫合部の一部壊死という悲惨なものに終わりました。ヨシノは、患部の微細な変化にも注意を払い、電話での質問や診察時の確認を怠りませんでした。医師はその訴えを看過しました。加えて、この期間、提供されるはずの精神的ケアも受けられないまま、ヨシノは突然壊死を告げられることになったのです。

その後ヨシノは、壊死の原因について、ジェンダークリニック運営委員会への出席や質問状の提出を通じて説明を得ようとしていました。しかし病院側からの誠実な対応はありませんでした。友人たちは、本人と共に一連の経過を振り返る中で、医療ミスの疑いと、チーム医療の不在を強く感じました。そして、裁判で事実を明らかにするしかないという状況を支えるために、「ヨシノ支援プロジェクト」を発足したのです。

この裁判は、国内初のGID医療訴訟となりました。提訴から1年の間、様々な人に会い、学習し、支援を進める中で、大阪医大の問題点、ひいては日本のGID医療が抱える闇が徐々に明らかになっています。医療訴訟そもその難しさに加え、GIDという稀少医療を問う困難に向き合いつつ、私たちは、この裁判闘争を続けていきます。

原告：ヨシノユギ

立命館大学
先端総合学術研究科在学中。
男女という制度やジェンダー
規範への疑問から、「逆の性」
への同化・埋没を望まない
「当事者」。



生存と尊厳をかけたヨシノの闘いに、温かいご支援をお願いします

副代表・平田正造

大阪医大の医療過誤を巡るヨシノユギの裁判が始まって一年が経ちました。この一年間、裁判闘争を進めて来られたのは、多くの支援者の方の励ましがあつたからです。本当にありがとうございます。

さて、本裁判はここまで6回の口頭弁論を重ね、多くの証拠を提出して来ました。私たちも弁護士と協力しながら、裁判に関係する文献探しやセカンドオピニオンの検討などを続けて来ました。こうした活動の中で、原告が受けた医療過誤の酷さや杜撰さを改めて確認してきました。

私たちは、原告の名誉を回復させるとともに、安心してGID医療が受けられる状況を目指して今後もより一層頑張っていきたいと思っております。ご支援よろしくお願いたします！

支援者から

WE NEED YOUR HELP



1, 賛同人としてお名前やメッセージをお寄せ下さい。

この闘いに興味を持って頂き、支持を表明して下さる場合は、下記のアドレスまでお知らせ下さい。賛同人の方には、メールニュースによって裁判や学習会のご案内を差し上げています。

2, カンパにご協力ください。

カンパは、裁判費用(訴訟着手に約25万円)と、書面作成の上で必要なセカンドオピニオン(40万円)や専門書購入などに充当させて頂きます。会計はHP上ですべて公開しています。裁判の性質上、金銭的負担が高くなる医療訴訟を維持していくために、ご協力をお願いします。

ヨシノ支援プロジェクト

救い難き理想主義者ども/スクドモ

✉ sukudomo@yahoo.co.jp
🏠 http://www.geocities.jp/suku_domo/
💰 00920-1-298335
郵便口座振込。1口500円～お願いしています。